

志賀自然教育研究施設年報

平成19(2007)年2月～平成20(2008)年1月

I 人 事

別府 桂教授の施設長任期終了に伴う選挙が2月に行われ、赤羽貞幸教授が選出された（任期は平成19年4月1日から21年3月31日まで）。

II 概 況

1. 施設運営

法人化4年目、当初の中期計画に基づき、下記の2項目に重点を置いて施設運営を行った。

1) 実習「自然教育」の内容を見直し、登山・キャンプ・遠足等の教育活動の指導に役立つ実習となるように改善する：平成19年度の実習は、これまでの学生の実習レポートの内容などを参考にし、自然観察や登山をより学生主体で行えるようなプログラムを実施した。

2) 信州大学山岳科学総合研究所の研究プロジェクトに参画し、他大学や地元の関係研究機関・施設との連携を深め、地域の自然環境の動態分析等に関する共同（協同）研究等を推進する：山岳科学総合研究所研究プロジェクト「21世紀の日本アルプスの自然環境」および「北アルプス地域における自然環境の変動と保全・適正利用に関する総合研究（2007年度学長裁量経費）」に兼任教員の井田施設主任が参画し、それぞれ「北アルプス山麓の伝統的茅場における植生動態」と、「北アルプスの山岳景観と世界遺産としての評価に関する調査研究」を遂行した。こうした共同研究への参画は、来年度以降も継続する予定である。

3) 環境省長野環境事務所の主催による「志賀高原利用基本構想意見交換会」に参画し、地元の方々、行政の方々とともに国立公園の理念を踏まえつつ新しいニーズに適應した基本構想の検討を行った。

また、当施設が立地する志賀高原では、例年どおり、一般向けの自然観察会をはじめ、地域活性化のための相談を受けたり、自然観察ガイド向けの研修会や児童・生徒向けの講演を行ったりした。

2. 施設管理

例年通り、自然教育園、ロックガーデン、資料館及びキャノ平分園の整備がなされた。建物、園内で特に大きな補修等はなかったが、老朽化に伴う水漏れ等の小さな修繕箇所がいくつかあった。建物内外の清掃とゴミ分別、省エネルギーは十分に徹底された。

III 運 営 委 員 会

1. 第一回 平成19年6月13日（水）（教育学部第1会議室）

1) 平成18年度事業報告及び決算報告について

井田施設主任より平成18年度中に執行された事業について報告があり、それに伴う決算について、小林会計係長より説明があった。これらについて審議し、原案通り認められた。資料館の入館者について、平成17年度に比べ個人は増加したが、団体の入館者が減少したことにより、全体として減少した。また、施設の利用者及び宿泊者数は、平成17年度に比べ増加した。今後も利用者が増加するよう工夫をしていくことになった。

2) 平成19年度事業計画（案）及び当初予算（案）について

井田施設主任より平成19年度事業計画（案）について、小林会計係長より平成19年度当初予算（案）について説明があり、これらについて審議した。その結果、今年度の事業計画（案）と当初予算（案）は承認された。最後に、次回の運営委員会は10月頃、できれば現地視察を兼ね志賀施設で行う予定であることが報告された。

2. 第二回 平成19年10月31日（水）（教育学部第1会議室）

1) 平成19年度事業・予算の執行状況について

井田施設主任より平成19年度事業中間報告について、小林会計係長より平成19年度予算執行状況中間報告についてそれぞれ説明があり、これらについて審議した。施設運営は滞りなく行われ、予算執行状況についても特に大きな予算外出費もなく、順調であることが報告された。10月末での予算執行状況は約54%であった。また、土地借料が当初見込みと比べて減額されているとの報告がなされた。丸池水道組合の給水管の修繕については多額の費用がかかることから、他の組合員との協議も含め、検討課題になっていることが報告された。

2) 施設の将来展望について

宿泊者の利用促進を図るため、施設利用料の徴収方法の検討を図ることとした。また、施設の危機管理について、食事提供の件などについて今後の検討課題とした。その他、志賀施設の今後の問題点について様々な視点から御意見をいただいた。

〔運営委員〕任期：平成19年4月～20年3月末まで、以下、いずれも敬省略。

〔言語〕金子史彦、〔社会科学〕齋藤寛海、〔理数科学〕中村浩志、〔生活科学〕三野たまき、〔芸術〕上田秀洋、〔スポーツ科学〕渡辺隆一、〔教育科学〕中西公一郎、〔教育実践センター〕上村恵津子、〔施設長〕赤羽貞幸
〔事務局〕〔副学部長〕池田義雄、〔同補佐〕中原芳雄・北澤三幸、〔会計係長〕小林壽、〔管理係長〕百瀬賢一、〔学務係主査〕松木敬芳、〔学務係主任〕中川太郎

〔事務局〕〔副学部長〕池田義雄、〔同補佐〕中原芳雄・北澤三幸、〔会計係長〕小林壽、〔管理係長〕百瀬賢一、〔学務係主査〕松木敬芳、〔学務係主任〕中川太郎

〔施設職員〕〔施設主任〕井田秀行、〔技術職員〕竹節順治

IV 教育活動

1. 志賀実習（自然教育）

教育学部の1年次生（障害児教育専攻は除く）を対象に例年通り自然教育実習を実施した。日程は以下の通りで、合計9班を受け入れた。井田施設主任および別府桂教授で分担・担当した。〈合計受講者数274名〉

【班編成】

班 担 当	日 程	専攻または分野
井田	6月12日（ガイダンス）	全員（於：松本旭キャンパス）
1 井田	6月17～18日	言語教育
2 別府	6月23～24日	社会教育
3 井田	6月30～7月1日	芸術教育
4 別府	7月7～8日	保健体育・教育実践
5 井田	7月14～15日	生活科学
6 別府	7月21～22日	数学教育
7 井田	8月4～5日	理科教育
8 井田	8月6～7日	地域スポーツ・野外教育
9 別府	8月8～9日	心理臨床

2. 施設教員による大学院教育学研究科授業・実習

「生物学特論IV」前期2単位で開講（井田）

「生物学演習IV」通年2単位で開講（井田）

「地学特論III」後期2単位で開講（赤羽）

3. 公開講座

「わくわくフィールド・ウォッチング～信州の自然と風土に学ぶ」

1) ねらい：信州に息づく森、地形、里やまの自然と風土に触れながら臨場感あふれる自然と人の生き様を、フィールドワークを通して学ぶ。

2) 日程・内容・開催場所・時間

第1日 8月26日（日）「生きているブナの森」木島平村カヤノ平：11：00～6：00

第2日 9月9日（日）「活断層と善光寺地震の痕跡めぐり」長野市街地：10：00～15：00

第3日 9月30日（日）「雪国の里やまと人のいとなみ」飯山市なべくら高原：10：00～15：00

3) 講師

井田秀行（施設主任：信州大学教育学部准教授・森林生態学）（第1，3日担当）
赤羽貞幸（施設長：信州大学教育学部教授・地質学）（第2日担当）

4. 出前講座

5月23日 木島平村「森に学ぶ」（木島平村カヤの平ブナ林）
9月25日 伊那市立長谷小学校4年生「森に学ぶ」（伊那市鹿嶺高原）

5. 出版

研究業績44号（450部）を平成19年3月に発行し、国内外の大学図書館、博物館等関連機関に配布した。

6. 他学部および他大学の施設利用

埼玉大学教育学部・雪の観測（2月）
大阪教育大学・雪結晶観察及び積雪観測実習（2月）
信州大学理学部物質循環学科・野外実習（2月）
米国ユタ大学・日本語研修（5月）
上越教育大学・理科野外観察指導実習（9月）
信州大学理学部物質循環学科・野外調査実習Ⅰ（9月）

7. 研修会・観察会等支援活動

（井田）

2月17日 Green Lab. Fan Session スノーボードキャンプ森林セミナー講師（須坂市峰の原および上田市菅平高原）
2月22日 浅間山麓における民間活動支援方策検討委員会検討委員（アサマ2000パークテドリーホテル）
2月23日 長野市立博物館協議会会議
4月15日 飯山市五東活性化委員会「カタクリ観察会」講師（飯山市五東神社カタクリの道）
4月29日 環境省「自然にふれあうみどりの週間の集い」雪上自然観察会講師（信大志賀自然教育園）
6月25日 浅間山麓における民間活動支援方策検討委員会検討委員（小諸市コミュニティセンター）
6月26日 NPO法人浅間国際自然学校インストラクター講習会講師（高峰高原ホテル）
6月29日 北信公民館運営協議会主事研修会現地学習「いま里山に何が起きているか」講師（飯山市なべくら高原森の家）
7月6日 長池の会自然観察会講師（信大志賀自然教育園）
7月10日 第2回「里地・里山の自然再生 in 高天ヶ原」学習会講師（志賀高原高天ヶ原湿原）
7月11日 さいたま市立岸中学校林間学校事前学習会講師（さいたま市立岸中学校）
7月12日 須坂看護学校林間学校講師（信大志賀自然教育園）
7月14日 財団法人育てる会「大岡ひじり学園」自然観察会講師（信大志賀自然教育園）
7月26日 NPO法人神奈川県自然保護協会自然観察講師（信大自然教育園）
7月30日 白鷺大学足利高校富田校舎1年生野外学習講師（志賀高原自然保護センター）
7月30日 田園調布学園中等部（東京都）林間学校講師（志賀高原熊ノ湯・リバーサイドホテル）
8月8日 大阪女学院高校志賀高原研修講師（信大自然教育園・池めぐりコース）
8月9日 大阪女学院高校志賀高原研修講師（カヤの平）
8月11日 女子中高生理系進路選択支援事業 2007信州夏の学校「わたしもサイエンティスト！」講師（信大志賀自然教育園）
8月27日 長野市地方文化財保護審議会委員（長野市役所）
9月4日 信州大学シニアサマーカレッジ講演（信州大学理学部）
9月18日 森林セラピー基地いよいよ「森の案内人」ガイド基礎講習講師（飯山市なべくら高原森の家）
9月18日 上田市西部公民館自然に親しむ講習会講師
9月28日 第3回「里地・里山の自然再生 in 高天ヶ原」学習会講師（志賀高原高天ヶ原湿原）
10月6日 志賀高原自然観察会講師（池めぐりコース）
10月15日 長野市立博物館協議会会議（長野市博物館）
10月21日 文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」自然環境診断マイスター養成第1コース（秋冬の自然環境診断）講師（カヤの平）
11月16日 浅間山麓における民間活動支援方策検討委員会検討委員（小諸市役所）
1月31日 上信越国立公園（草津万座・菅平・浅間地域）管理計画検討会（上田合同庁舎）（赤羽）
5月12日 長野県上伊那北部教職員会（辰野町民会館）
6月26日 信濃川自由大学（長岡市バストラル長岡）
7月7日 信州大学文理融合型共同プロジェクト講演会（信州大学教育学部）
8月4日 信濃教育会教育研究所ワークショップ（信濃教育会）
8月20日 飯綱町文化会館講演（飯綱町文化会館）
9月3日 信州大学シニアカレッジ講演（信州大学理学部）

- 9月6日 善光寺地震の被害状況を知る」シンポジウム「地震による土砂災害の教訓を継承し、現代に活かす」実行委員会（長野県県民文化会館）
- 10月16日 「流れる水のはたらき」長野市豊栄小学校5年生授業
- 12月14日 「流れる水のはたらき」茅野市金沢小学校5年生授業
- 12月14日 「大地のつくりと変化—諏訪の大地—」茅野市金沢小学校6年生授業
- 12月18日 「善光寺平に埋もれた遺跡群のなぞ—長野盆地の形成過程—」堤防河道研究会（長野厚生年金会館）

V 研究活動

1. 研究プロジェクト

- ・環境省重要生態系監視地域モニタリング推進事業（通称モニタリングサイト1000；<http://www.biodic.go.jp/moni1000.html>）：志賀高原「おたの申す平」の亜高山帯針葉樹林と「カヤの平」のブナ林の2箇所
の森林において生態系モニタリング（樹木の個体群動態・生産量の調査、甲虫の調査）を実施（井田）。
- ・山岳科学総合研究所研究プロジェクト「21世紀の日本アルプスの自然環境」（2007年度学長裁量経費）
において「北アルプス山麓の伝統的茅場における植生動態」に関する調査研究を実施（井田）。
- ・山岳科学総合研究所研究プロジェクト「北アルプス地域における自然環境の変動と保全・適正利用に関する
総合研究」（2007年度学長裁量経費）において「北アルプスの山岳景観と世界遺産としての評価に関する
調査研究」を分担・実施（井田）。
- ・現代GP「教育の質保証プロジェクト」において「自然教育野外実習」のe-Learning教材作成。
- ・三菱財団助成研究「内陸から見た日本列島に関する総合的研究—戸隠総合学術調査の再調査を中心にして」
を実施（井田・赤羽）。
- ・長野県地質図作成プロジェクトで北信地域を担当，調査を継続中（赤羽）。

2. 基礎研究

- ・ブナ林の更新動態に関する研究（調査地：カヤノ平，長野県北部・中部，広島県など）
- ・里山の保安全管理技術に関する生態学的研究（調査地：飯山市など）
- ・伝統的景観の保全に関する生態学的研究（調査地：飯山市，小谷村など）
- ・生態学的思考をベースにした自然教育のための教育プログラムの作成

3. 学会発表

井田秀行（2007）長野県中・北部における1998年から2006年のブナ種子生産量。日本生態学会中部地区大会
（飯田市美術博物館），6月23日。

4. 論文等

[著書]

赤羽貞幸（2008）『土地分類基本調査「信濃池田」』（共著）長野県農政部。

[紀要等論文・報告書等]

赤羽貞幸（2007）「1847善光寺地震報告書」内閣府中央防災会議，p.22-60。

赤羽貞幸（2007）「長野県北部の新潟県中越沖地震—飯綱町周辺はなぜ強く揺れたのか—」信大NOW，
No.47。

井田秀行・後藤彩・青木舞・白田武司（2007）豪雪地帯におけるブナ林の森林構造：長野県飯山市鍋倉山の
事例。信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設研究業績 44：11-18。

生物圏保存地域カタログ編集委員会（2007）日本のユネスコ/MAB生物圏保存地域カタログ Ver.II。

VI 園内整備

例年通り，志賀自然教育園内及びカヤノ平分園内の自然観察路の落ち葉掃除，側溝整備，笹刈り，階段整備
を5月から10月まで行った。同時にロックガーデンの植物への名札つけなどの作業も随時行った。

Ⅶ 平成18年度の志賀施設の利用状況

(1) 資料館入館者の集計表（記帳者のみ）カッコ内の数値は平成17年度の数値。

表1. 来館団体の種類（10名以上のグループを団体とする）

	県 外				県 内				計			
	団体数		人 数		団体数		人 数		団体数		人 数	
幼稚園・保育園	0	0.0%	0	0.0%	2	28.6%	52	24.3%	2	3.8%	52	3.0%
小学校	7	15.2%	354	23.1%	0	0.0%	0	0.0%	7	13.2%	354	20.3%
中学校	9	19.6%	278	18.2%	0	0.0%	0	0.0%	9	17.0%	278	15.9%
高等学校	1	2.2%	40	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.9%	40	2.3%
専門学校	1	2.2%	23	1.5%	1	14.3%	73	34.1%	2	3.8%	96	5.5%
大学	6	13.0%	150	9.8%	1	14.3%	15	7.0%	7	13.2%	165	9.5%
一 般	22	47.8%	685	44.8%	3	42.9%	74	34.6%	25	47.2%	759	43.5%
計	(52)		(2,110)		(9)		(212)		(61)		(2,322)	
	46	100.0%	1,530	100.0%	7	100.0%	214	100.0%	53	100.0%	1,744	100.0%

表2. 団体の県内外の比率

団体の種類	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	専門学校	大学	一 般
県 内	29%	0%	0%	0%	14%	14%	43%
県 外	0%	15%	20%	2%	2%	13%	48%

表3. 月別参観者数

月	個 人		団 体				計	
	個 数	人 数	団 体 数	人 数		個 数	人 数	
5	45	3.3%	0	0.0%	0	0.0%	45	1.5%
6	100	7.4%	5	9.4%	109	6.3%	209	6.7%
7	196	14.5%	28	52.8%	1,025	58.8%	1,221	39.4%
8	634	46.9%	6	11.3%	173	9.9%	807	26.1%
9	198	14.6%	6	11.3%	128	7.3%	326	10.5%
10	172	12.7%	8	15.1%	309	17.7%	481	15.5%
11	8	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	8	0.3%
総計	(1,070)		(61)		(2,322)		(3,453)	
	1,353	100.0%	53	100.0%	1,744	100.0%	3,097	100.0%

(2) 平成18年度 附属志賀自然教育研究施設月別宿泊利用人数

区 分	年・月	18年										19年			計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
利用人数	学 内	0	0	0	0	11	39	10	0	2	0	23	0	85	
	自然教育実習	0	0	20	116	218	170	0	0	0	0	0	0	0	
	学 外	0	0	44	0	18	17	0	0	0	0	25	9	113	
	計	0	0	64	116	247	226	10	0	2	0	48	9	(400) 722	
宿泊延人数	学 内	0	0	0	0	11	78	26	0	2	0	46	0	163	
	自然教育実習	0	0	20	116	218	170	0	0	0	0	0	0	524	
	学 外	0	0	44	0	36	17	0	0	0	0	61	18	176	
	計	0	0	64	116	265	265	26	0	2	0	107	18	(742) 863	